

新春企画

コロナ禍の2年を振り返って



2022年はこんな一年にしたい!

新型コロナウイルス(以下、コロナ)の感染者が、国内で初めて確認されたのが2020年1月16日。コロナと共にあったこの2年で、生活や仕事、教育、人とのつながり方など、多くのものが変化しました。今回はコロナ禍の2年間を振り返って「2022年はどんな一年にしたいか」をさまざまな人に伺いました。皆さんはどんな一年にしたいですか?

2020年8月 PCR検査センター開設



市や市立病院に多くの寄附が寄せられた



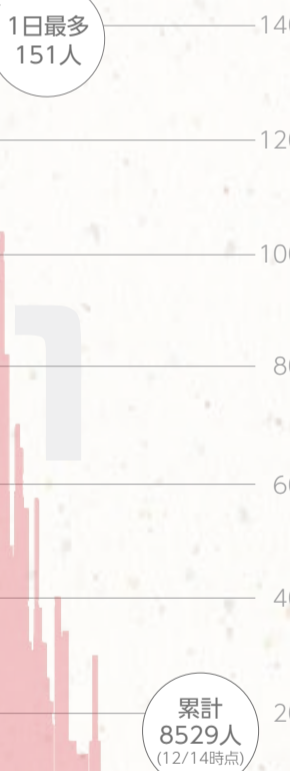
ワクチン接種を実施

2021年10月 市民祭りをオンラインで実施



市内新規患者発生数の推移 (1日当たり) ※12月14日時点

1日最多 151人



累計 8529人 (12/14時点)

2020年2月 対策本部会議を実施



感染防止対策を実施



2020年3月 本紙臨時号を発行

2020年4月 医療従事者に敬意を示すブルーライトアップ



2021年8月 にしきた接種会場を開設



Timeline table from January 2020 to December 2021 detailing emergency measures, vaccination campaigns, and other events. Includes dates and descriptions of actions taken by the city.

※ 緊急事態 …緊急事態宣言の本市対象期間 まん延 …まん延防止等重点措置の本市対象期間 【西暦・元号対照】2020年=令和2年、2021年=令和3年、2022年=令和4年

30代 パート職員 2歳になった我が子を、遠方に住んでいる祖父母にまだ会わせる事ができていません。2022年は「コロナが落ち着いたらね」を合言葉に会えなかった人たちとも、再会できたらうれしいと思っています

80代 健康で、人と接する際 笑顔忘れずに…

70代 友達がたくさんできる年にしたい

50代 カフェ・サポーター 地域の中で、明るく楽しくつながり合って、笑顔の今日一日を大切にできる年になりますように…

20代 保健師 コロナを気にせず、のびのび旅行したい

西宮市医師会 伊賀 会長

医師会としては、ワクチンの3回目接種を全力で進めて日常を取り戻す、これに尽きます。2022年が「みんなが笑える一年」になるように、集団接種・個別接種ともに、引き続き市に協力し、着実に、かつ円滑にワクチンの接種を進めていきます。



20代 会社員 家族との時間を大切にしたい!

10代 小学生 みんなで話しながら給食を食べたい

2021年全日本マーチングコンテストで金賞受賞!



上甲子園中学校 吹奏楽部

コロナ禍の2年で、部活動の停止や大会の中止を経験し、練習できること・大会に出場できることが、当たり前でなくなりました。2022年も、先輩達と経験してきたことを生かして、周りの人への感謝を忘れず、充実した一年にしたいです。

30代 保健師 市民さんの笑顔が見える 仕事がしたい

80代 何事も無い一年を願います。健康に気をつけて楽しい年にしたいです

10歳未満 小学生 お母さんとホテルや お店をまわったりしたい

40代 保健師 嵐のような日々がありましたが、心穏やかに過ごしたいです

にしのみや市民祭協議会 実行委員 藤田 さん



2020年は中止となった市民祭りですが、2021年は「市民の人が発表する場を設けたい」との思いから、何とかオンラインで開催しました。2022年は感染対策を行いつつ、コロナ前のように現地で楽しめる、「みんなの思い出に残る」お祭りを開催したいです。



西宮・甲子園ヒーロー揚げ推進委員会代表 飲食店経営 山崎 さん

今年は、「五感で感じるリアルな人のつながり」を取り戻したい。この2年のコロナ禍は、お客様が激減。今も不安な日々が続いています。私たちは、お客様の笑顔と「おいしい」の言葉が元気の源です。安心して集まれる場所を提供したいです。

40代 社会福祉協議会職員 お祭り、お茶会、飲み会など、地域の中で楽しいことをいっぱいしたい!

30代 保育園事務 気兼ねなく出掛けられ、人と会える、笑顔の絶えない年にしたい

20代 アルバイト マスクがなくても生活できるように

30代 ファッションデザイナー 不死鳥魂で、心身の病に打ち勝つ

60代 会社員 コロナに振り回されず、おびえず、でも侮らず 冷静に対応できる力をつける年にしたい

西宮コミュニティ協会 広報専門部長 かつらうま 「宮っ子」編集員 葛馬 さん

一時休刊した地域情報誌「宮っ子」ですが、各地域の編集員さんの頑張りにより発行を再開できました。行事がなく人も集まれない中、「集まらずに作って、読者に楽しんでもらえる企画を」と工夫しています。2022年も状況に対応しつつ、発行を続けていきたいです。



ポストコロナのその先へ

2020年1月に国内で初めて新型コロナウイルスの感染者が確認されて以降、想定外の事態に翻弄(ほんろう)されつつも、その対策に全力で取り組んでまいりました。2021年12月時点では、市内の感染者数は比較的落ち着いていますが、これは、市民・事業者の皆さんからの多大なご協力によるもので、感謝の思いでいっぱいです。一方で、コロナ禍の影響により、地域のつながりが希薄になってしまった部分もあり、歯がゆく思うとともに、人と人のつながりの大切さを改めて感じています。今後、新型コロナが再拡大したとしても、市民の皆さんと一致団結して課題・困難に立ち向かうことで、明るい未来、明るい西宮を築いていくことができると信じています。今年もよろしくお願ひ申し上げます。

西宮市長 石井登志郎

